

# Le Semeur

【ルスメール】＝種をまく人  
【教育相談】の種をまく人でありたい  
こどもの心に【愛の種】をまきたい  
自分の心に【ゆとりの種】をまきたい

日本学校教育相談学会山梨県支部 会報  
発行 2020年度 No.1 8月23日  
発行者 山梨県支部事務局  
住所 北杜市長坂町中丸4333-16

## 令和2年度 第2回研修会の概要

令和2年7月25日(土)午後2時から、韮崎市民交流センター「ニコリ」にて第2回研修会を実施しました。今回は「効果的なケース会議のあり方～新型コロナ状況に適した短時間のブリーフミーティング」として、中央高校通信制教頭佐野和則先生よりご講義いただきました。

### 1 研修会テーマ

「効果的なケース会議のあり方～新型コロナ状況に適した短時間のブリーフミーティング」

### 2 研修会内容

- 1 自己紹介
- 2 コロナパニックとチーム支援
  - ①相談支援場面でよく起きていること  
コロナ休校と分散登校、さらに夏休みの短縮・・・対話不足
  - ②対話の促進だけで改善する
- 3 チーム支援会議の行い方
  - ①支援会議の意義
  - ②有効な支援会議とは
  - ③支援会議開催のきっかけ
  - ④支援会議の流れ
- 4 支援会議のコツ
- 5 架空事例による演習

### 3 参加者の感想（アンケートより） \* 6名参加

- ・これまで学校で行われてきたケース会議の課題を克服できる内容であった。特にチーム対応の重要性と具体的支援策の検討が役立った。
- ・考え方(思考の)方向性を示すことで会議の方向性もはっきりして、建設的(解決的)になるということを経験して理解した。
- ・情報共有も大切だが、介入方法を共有することに時間を取りたいと思った。
- ・実際に活用できる内容でとてもよかった。実際に活用することで、効果的な支援会議のスキルを高めていきたい。

#### 4 その他

- ・コロナ禍の折、県内のどの学校・機関においても、今までとは異なる日常の中で、知らず知らずのうちに子どもも私たち教師や支援者もストレスを感じていることと思います。思えば3.11以来、「想定外」や「未曾有」の出来事が次々と日本、そして世界を襲い、常に新たな対応を一人一人が求められ続けてきたように感じます。この傾向は今後さらに続き、深刻さの度合いを増すことが懸念されます。そのような時だからこそ、「教育相談」を指導・支援の中心に据え、今回の研修でも言われたように、支援者だけでなく本人こそ問題解決の主体となれるように、私たちは一層力を合わせて学びを深めていかなければならないと気持ちを新たにしました。
- ・研修会場である「ニコリ」は出入り口にアルコール消毒液が設置され、談話スペースの家具類はすべて撤去、研修室の使用時間も最長2時間とコロナ対策が徹底して図られています。研修会参加の折には、マスク着用はもちろんご自身の体調などご配慮いただけますようお願いいたします。

#### ○次回研修会

次回研修会は8月29日（土）14：00～16：00、会場「ニコリ」にて「事例を通して支援のありかたを学ぶの研修会」として行います。事例の申し出が1件ありましたので、その事例を中心に、事例提供者が最も得をする研修会になるように勧めていきたいと思っております。

#### ○学校教育相談基礎講座

山梨県支部では、学校教育相談基礎講座として、来年度7回の研修会を計画しています。将来、学校カウンセラーの資格を取得したい方、基礎的な知識や手法を身に付け、生徒指導や学級経営に生かしたい方などは是非ご参加ください。詳しいことについては、日本学校教育相談学会山梨県支部のHPをご覧ください。

#### ○入会申し込みについて

当学会への入会資格は数年前に全て撤廃され、興味のある方ならどなたでも入会できるようになりました。研修会の様子を見たい方は、研修会当日直接おいでいただくか、事務局の佐藤までご連絡ください。

（文責 佐藤 丈）